

特色 5 SDGsの実現に向けたさまざまな資料

具体的な地域事例を多数掲載

SDGsを紹介した巻頭ページ

▶ 地理的分野の学習全体を通して「持続可能な社会の実現」を意識づけるため、巻頭ページでSDGsに該当する世界の事例を紹介しています。

地域のよりよい発展を目指して

私たちが暮らす日本も含めた世界は、持続可能な社会を実現するために、SDGs (Sustainable Development Goals) とよばれる「持続可能な開発目標」に取り組んでいます。SDGsは、下のように17の目標からなり、世界のさまざまな問題を2030年までに解決するための目標として、2015年に国際連合で採択されました。地域のよりよい発展を目指す世界や日本の例を、見てみましょう。

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. 健全な成長
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. 再生可能エネルギー
8. 働きがい、経済成長、雇用
9. 産業とイノベーションに力をいれよう
10. 人や国、地域をつなぐ
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つぶやみ、責任ある消費
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさも守ろう
16. 公正な裁判と法の支配
17. パートナリシップで目標を達成しよう

▶ 巻頭1-2

SDGsの概要について説明しています。

13 気候変動に具体的な対策を
17 パートナリシップで目標を達成しよう

SDGsの目標のどれに該当するかを示しています。

(→ p.105, 116)。

この見開きにある写真は、本文ページの資料としても使用できます。

「日本の諸地域」で取り上げた地域事例

▶ 第3部第3章「日本の諸地域」では、各地方の節末に特設ページ「地域の在り方を考える」を設置し、SDGsに関連した地域の取り組みを紹介しています。

地域の在り方を考える

自然環境の再生から資源循環型社会へ

～工業の発展と公害をいち早く経験した福岡県北九州市を例に～

日本では、もともと自然環境を改変することによってさまざまな公害が発生した歴史があつて公害が深刻だった北九州市は、公害を克服した経験を生かし、現在では「環境モデル都市」に認定されています。北九州市はどのようにして公害を克服し、現在に至ったのかをみてみましょう。

1960年代
2015年

▶ p.186

地域の在り方を考える

時代の変化に対応する産業の創出

～新たなものづくりに挑戦を続ける静岡県浜松市を例に～

日本企業の海外進出や、価格の安い外国企業からの輸入が増えたため、一部の工業では国内の生産が衰退し、産業の空洞化が進んでいます(→p.161)。

静岡県の中でも工業が盛んな浜松市では、産業の競争力を高めるために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。

▶ p.234

これらの事例は、第4部第1章「地域の在り方」を構想する際の参考にもなります。

・自然環境の再生から資源循環型社会へ (p.186)

▶ p.292 4

「地域の在り方を考える」掲載箇所一覧 (全7テーマ)

| ページ | 地方 | テーマ |
|-------|---------|----------------------|
| p.186 | 九州地方 | 自然環境の再生から資源循環型社会へ |
| p.202 | 中国・四国地方 | 通信網を生かした地域おこしの取り組み |
| p.218 | 近畿地方 | 環境につかわれた産業の発展のために |
| p.234 | 中部地方 | 時代の変化に対応する産業の創出 |
| p.252 | 関東地方 | 都市と農村の交流の取り組み |
| p.268 | 東北地方 | 災害からの復興と生活の場の再生 |
| p.284 | 北海道地方 | 地域の多様な文化を大切にしている取り組み |

地域の在り方を考える

災害からの復興と生活の場の再生

～高台に移転した岩手県宮古市田老地区を例に～

2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)によって、東北地方の太平洋側の沿岸を中心とする地域を、巨大な津波が襲いました。これにより、多くの人命、建物、人々の暮らしの場が奪われました。被害が大きかった宮古市田老地区では、復興に向けてどのような取り組みが行われているのでしょうか。

▶ p.268

5 SDGsの実現に向けたさまざまな資料

防災・環境・共生への意識が高まる工夫

本文
(p.148-149)

日本で発生する自然災害について記述しています。地形や気候などの自然条件と関連付けて理解できます。

4 日本のさまざまな自然災害

日本では、大きな地震は、こんなにたくさん起きているんだね！

日本の周辺では、大きな地震は、こんなにたくさん起きているんだね！

日本列島のプレート 日本列島の周辺には四つのプレートの境界が集中しているため、プレートどうしがぶつかり合う力によって地震が発生しやすくなっています。(p.142)

主な火山と地震の震源地 (理科年表 2019, ほか) 資料活用 火山と震源地の位置に注目しよう。

学習課題 日本では、大きな地震は、地形や気候とどのような関係があるのだろうか。

地震と火山災害が多い日本 日本は、環太平洋造山帯に位置しているため地震が多く、各地に分布する火山の活動も活発

p.148

本文
(p.150-151)

防災や減災への工夫など、災害への取り組みについて記述しています。災害への備えを知ることによって、災害時にどう行動すべきか理解できます。

5 自然災害に対する備え

国や地域は、自然災害を防いだり、被害を少なくしたりするために、どのような工夫をしているのだろうか。

防災への工夫 災害を引き起こす地震や豪雨、台風などの自然現象そのものを止めることはできません。日本では、これ

南海トラフの巨大地震が起きた際に発生すると想定されている津波の高さ (内閣府資料)

どうしてこんなに高いタワーが作られたのかな？

南海トラフ 海底の深い部分にある断層をもった溝で、海溝ほどの深さのない所はトラフと呼ばれています。日本の太平洋側にはいくつかのトラフがあり、南海トラフは、静岡県から高知県にかけての太平洋沖に位置しています。

防災訓練で津波避難タワーに避難する人々 (静岡県、富士市)

p.150

技能
(p.152-153)

ハザードマップを用いたシミュレーション学習に加えて、自分たちの地域で生じる災害と避難の方法を考えることで、災害に備える意識を高められるようにしています。

技能をみがく ハザードマップの読み取り方

ハザードマップとは、火山の噴火や津波、洪水など、さまざまな自然災害による被害の可能性や、災害発生時の避難場所などを示した地図のことです。自然災害の多い日本では、都道府県や市区町村など、多くの地域でハザードマップが作成されています。また、「国土交通省ハザードマップポータルサイト」では、全国のハザードマップに関する情報を得ることができます。津波に関するハザードマップでは、浸水範囲や避難場所などの災害に関するさまざまな情報が、特別な記号や表現で示されています。ここでは、神奈川県鎌倉市の「津波ハザードマップ」を例に、ハザードマップの活用方法を学びましょう。

やってみよう

- 県が想定する地震で津波が発生した場合、長谷駅は何m浸水すると予測されているのか、図2を見て考えよう。
- あなたが図2の★の地点の海岸にいる時に、津波が発生する危険性を感じたら、ア、イ、ウのどちらかに避難すればよいか、図2を見て考えよう。

図2が示しているおおよその範囲

空から見た鎌倉の市街地 (神奈川県、鎌倉市)

県定明成型地震による浸水の浸水

凡例

- 10.0m以上
- 8.0m以上10.0m未満
- 5.0m以上8.0m未満
- 4.0m以上5.0m未満
- 3.0m以上4.0m未満

鎌倉市立図書館 (22.0)

p.152

コラム
(9テーマ)

SDGs11「住み続けられるまちづくりを」に含まれる「防災」に関する内容を、本文・各種コラムなどで取り上げ、生徒が能動的に行動を起こすための第一歩をふみ出せるようにしています。

防災 土砂災害に備えた防災教育

中国・四国地方には、土砂災害危険箇所が約15万箇所あります。これは、地方別では最も多い数で、地形的に水はけがよく、崩れやすい山の斜面が多いことが、その主な原因です。近年では、2014年や2018年に広島・岡山県などが大雨に見舞われ、大規模な土砂災害が発生しました。広島県では、2015年から「みんなで減災! 県民ぐるみ運動」が行われています。県の職員などが小中学校に出向いて行われる土砂災害前講座では、土砂流や崖崩れの恐ろしさ、それらを防ぐ砂防ダム(砂防ゲム)の機能について、模型などを使って学び、自頭から防災意識を高めています。

りだったので、入り江になっている場所には「満待ちの港」とよばれる港が数多くありました。東西から流れ込む潮流の分かれ目に位置する広島県福山市の簗の浦は、こうした港の一つです。

p.191

「未来に向けて 防災」掲載箇所一覧 (全9テーマ)

| ページ | 防災 |
|-------|-----------------------|
| p.97 | 大平原で発生する竜巻(トルネード)に備えて |
| p.151 | 災害時の帰宅困難者対策 |
| p.175 | 南西諸島での水不足対策 |
| p.191 | 土砂災害に備えた防災教育 |
| p.207 | 震災の経験を語り継ぐ神戸 |
| p.223 | 御嶽山噴火の教訓を伝える火山マイスター |
| p.239 | 都市型の水害に備える取り組み |
| p.257 | 津波を後世に伝える桜の木 |
| p.273 | 全員避難を実現した地域ぐるみの防災教育 |

防災 震災の経験を語り継ぐ神戸

1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震では、震度7に達する強い揺れで多くの建物が倒壊しました。夜明け前の地震だったために、自宅に眠っていた人が建物や家具の落下によるなどして、6000人を超える人が亡くなりました(阪神・淡路大震災)。また、水道や電気、鉄道や道路などの生活基盤が破壊され、都市の生活が長期間まひしました。地震から20年以上たった今、震災後に生まれた若い世代や、新たに地域に移り住んできた人に、地震の恐ろしさ、それに対する備えの大切さ、そして教訓から復旧・復興への道りを伝えることが、ますます重要になっていきます。学校や職場などで、震災を経験した人が、みずから体験を話し、それを語り継いでいく取り組みが進められています。

三つの地域で異なる気候 近畿地方の気候も、北部・中央部・南部で異なります。日本海に近

p.239

防災 都市型の水害に備える取り組み

近年、集中豪雨や局地的大雨によって、都市型の水害が起こりやすくなっています。都市部では、自然を改変して住宅地や道路を整備したため、地面の多くがアスファルトやコンクリートで覆われています。そのため、雨水が地下にしみこみにくく、雨量が下水道や排水地などの排水処理能力の限界を短時間のうちに超えると、冠水や浸水が生じやすくなります。こうした都市型の水害を防ぐ取り組みの一つに、地下に設置される調節池や放水路などがあります。例えば、埼玉県東部の春日部市内の地下には、総延長約6.3kmにわたる首都圏外郭放水路が建設されました。この放水路は、大雨などであふれそうになった中川などの水を一時的に貯水し、江戸川に排水することで、中川・綾瀬川流域の洪水被害を防ぐ役割を担っています。

花見をを楽しむ観光客が見られる桜半島の花畑 (千葉県、南房総市、2019年2月撮影)

首都圏外郭放水路 (埼玉県、春日部市、2015年撮影)とその位置(上)

持続可能な社会を実現するための参考となる取り組みを紹介した、「環境」「防災」「共生」からなるコラム「未来に向けて」を、全25テーマ設置しています。現代および将来の社会が直面する課題について考えられるようにしています。

環境 地球温暖化による影響と危機

世界の海面はこの100年間で20cmほど上昇し、今世紀末までにさらに数十cm上昇すると予測されています。このことは太平洋にある標高の低いサンゴ礁でできた島々に暮らす人々にとって、深刻な危機として受け止められています。平均標高が1m余りしかないツバルでは、波による海岸侵食が激しさを増し、大潮のときには冠水の被害が広がるようになりました。そのためツバルでは、国際社会に対して、地球温暖化(→巻頭2, p.105)の原因となる温室効果ガス削減への取り組みを呼びかけています。

p.123

共生 世界とつながる平和記念都市、広島

長崎市とともに第二次世界大戦で原子爆弾の被害を受けた広島市は、平和記念都市として世界の平和を求め、核兵器の悲惨さを発信しています。その活動の一つが修学旅行の誘致です。国内各地から来る修学旅行生は年間30万人を超え、世界遺産に登録された原爆ドームなどを見学したり、被爆者の話を聞いたりしながら、命の尊さや平和の大切さを学んでいます(→巻頭2)。

平和記念式典(左)と「平和への願い」を読み上げる小学6年生(上) (広島県、広島市、2018年8月6日撮影)

p.193

持続可能な社会の実現のために

防災 全員避難を実現した地域ぐるみの防災教育

2000年3月、北海道の有珠山が23年ぶりに噴火しました。このとき、事前に噴火の兆候が観測されたのを受けて、周辺地域に避難指示が出され、噴火前に全住民が避難を完了していました。そのため、有珠山周辺の建物などは大きな被害を受けましたが、一人も負傷者や死亡者が出ることはありませんでした。全員避難が成功した背景には、1977年の噴火直後から、学校などで徹底した防災教育がなされたこと、1990年代にはハザードマップ(→p.152)が作られ、それに基づいて避難訓練が繰り返されるなど、地域住民が火山災害の恐ろしさを十分に理解していたことがありました。現在では、2000年の噴火の被害を受けた建物や道路などは、被災した状態のまま残され、火山活動による災害や、減災の知識を学ぶ場として活用されています。

火山について学ぶ登山ツアーで、1977年の噴火の説明を聞く参加者たち(有珠山、2017年8月撮影) 有珠山とその周辺の地域は、ユネスコ世界ジオパークに認定されています。

p.273